

各位

公益社団法人 日本水産学会
平成 25 年度秋季大会実行委員会
委員長 加納 哲

平成 25 年度 日本水産学会秋季大会開催のお知らせ

公益社団法人日本水産学会は会員約 4,000 名からなる水産学に関する日本国内で最も大きな学会であり、国内はもとより、諸外国からも水産系の最も充実した学会として認められています。

本学会では、来る 9 月 19 日(木)から 9 月 22 日(日)にかけて、三重県津市にある三重大学を会場として秋季大会を開催いたします。この大会では、水産学ならびに関連分野に関する最新の研究成果 424 題(口頭:263 題, ポスター:161 題)が発表されるとともに、特定の研究テーマに関するシンポジウム(2 件)、ミニシンポジウム(3 件)が 19 日と 22 日の両日開催されます。

一般の研究発表では、昨今様々な面から話題になることの多いウナギやクロマグロなどの重要魚類の種苗生産技術の開発に関する最新の研究情報や、一昨年 of 東日本大震災からの水産分野での復旧復興にかかわる話題提供など、興味深い内容のものが沢山登録されております。

学会主催のシンポジウムとしては、三重県と所縁の深い真珠やアコヤガイなど二枚貝養殖に関するもの、遊漁者の間で今一大ブームとなっているアオリイカに関するもの、そして NHK の朝の連続ドラマで人気が発した海女さんに関するものなど、水産研究者のみならず一般の方にも興味を持っていただけ、また楽しめる内容のテーマで多くの企画を準備しております。シンポジウムは一般の方も自由に聴取可能です(無料)。

また、9 月 21 日午後には、日本水産学会中部支部と三重大学大学院生物資源学研究科との共催で、ワークショップ「水産系高等学校と大学の連携による、水産に貢献する人材のキャリアパス形成を目指して」を開催し、我が国の水産業の健全な発展に貢献する人材を効果的に育成し現場に加入させるキャリアパスのあり方を参加者の討議を通して模索したいと考えています。また同時に、高校生によるポスター発表も行います。

特に注目されるシンポジウムなどについて、別紙に挙げてご紹介いたします。なお、全体のプログラムは、本学会ホームページ内にある大会案内からもご覧いただけます。

問合せ先:

平成 25 年度日本水産学会秋季大会実行委員会 総務担当 吉松 隆夫(三重大学内)
TEL: 059-231-9528 E mail: takaoyos@bio.mie-u.ac.jp

(別紙)

注目されるシンポジウム

○真珠研究の最前線－真珠養殖技術の革新を目指して－

9月19日（木）9:00－17:45

【解説】アコヤガイ真珠は豊かな海の作り出す宝飾品として永く愛されてきた。しかし近年、赤潮や赤変病の発生、経済状況の悪化、南洋産、淡水産真珠との競合などにより、日本の真珠養殖業は厳しい状況に置かれている。一方、遺伝子解析技術等の発展に伴い真珠形成に関わる遺伝子・タンパク質が多数解明され、昨年にはドラフトゲノムも公開された。最新の研究から真珠養殖を支えるどのような技術革新が期待されるのかを展望する。

○アオリイカの生物学と漁業技術の進歩

9月22日（日）9:30－16:15

【解説】アオリイカは沿岸に棲む身近な水産資源で、古来より人々に親しまれ、また高価に取引されることから、漁業関係者の関心は高い。遊漁においては、エギングと称される餌木釣りが昨今人気である。さらに、複雑で優美な行動は、広く人々を惹き付けている。一方、近年は神経行動学などのモデル動物としても注目され、基礎科学研究に貢献している。この四半世紀にアオリイカの生物学、漁業技術に関する知見は著しく増した。これらを分野横断的にレビューし、生物学と水産技術との交流を図る。

○海女漁業の現状と将来展望

9月22日（日）9:00－12:00

【解説】海女漁業は日本と韓国でのみ行われ、アワビ、海藻等の生産を担うとともに、海女による神事が多く存在するなど漁村社会において重要な役割を果たしているが、水産資源の減少や新規参入の減少等により危機的な状況にある。本ミニシンポジウムでは、海女漁業の変遷と現状、漁村社会での役割を理解し、海女漁業を支援する新しい動きの紹介により、海女漁業維持のために有効な取り組みを議論し、新たな展開に繋げてゆく。

○志摩半島周辺海域における二枚貝類養殖の現状と将来展望

9月22日（日）13:00－16:10

【解説】志摩半島周辺海域は、古くから二枚貝養殖の先進地であった。しかし、真珠養殖業の低迷や東日本大震災の津波によりカキ養殖施設が被害を受けるなど、二枚貝養殖業は困難に直面している。また、伊勢湾は日本有数のアサリ生産地であったが、近年その生産量は激減している。これらの状況から、新たな養殖技術開発によって、二枚貝養殖業を再生、安定化させる必要がある。養殖研究の現状を紹介し、将来展望について議論する。